



▲本社兼工場2F 営業統括本部
営業統括本部の執務スペース。営業部員は11名でそのうち9名が女性。社長の席もこちらに。高台にあるため、窓から遠くまで見渡せる。

いまどき オフィス探訪

1日の大半を過ごすオフィス。せっかくならば、働きやすい環境を整えたいところ。いまどきのオフィスを訪ね、これからのオフィス環境のあり方を探ります。

イメージ刷新で人が集まる！ カフェでものづくりをする町工場



▲本社兼工場1F モノづくり事業部
近隣に住む“マダム”がパートタイムで、ものづくりを行なう。15時に設けられている15分間のお茶タイムが何よりの楽しみという声も。

◀地域貢献活動を通じて、ものづくりを体験してもらった子どもたちから、感謝のメッセージが届くことも。

株式会社スリーハイ

- 所在地 神奈川県横浜市都筑区
- 業 種 産業用ヒーターの製造・販売
- 従業員 41名



▲本社兼工場 外観
町工場のイメージとは趣の異なるスタイリッシュな外観。

横 浜市都筑区の第三京浜道路を望む東山田準工業地域。

その一角に株式会社スリーハイの本社兼工場がある。1987年創業の同社は、産業用ヒーターの製造・販売を行なう。従業員数は41名で、平均年齢は39歳（男女比は約3対7）。その約半数が、パートタイムで働く近隣の主婦だ。

部門構成は営業統括本部とモノづくり事業部のみのいわゆる町工場だが、同社の職人は、昔ながらの工房ではなく、いまどきのカフェでものづくりを行なう。

地域貢献活動の一環として カフェを開設

5年前、業務拡大を図っていた同社は、本社兼工場から徒歩1分のところに偶然売りに出た物件を購入し、カフェ「DEN」を開設。ショールーム、工房を兼ねており、従業員はいつでも自由に利用できる。ランチタイムには近隣の住民も訪れ、地域の憩いの場となっている。

「この辺りは、準工業地域といつて、住宅街のなかに工場があり、揉め事も少なくありません。そのため、約10年前から近隣の子どもたちにもものづくりを体験して



▲カフェ「DEN」 外観

本社兼工場から徒歩1分に位置する。飲食店の少ない地域であるため、近隣住民にとっても貴重な憩いの場。

◀カフェ「DEN」 カウンター

天然酵母パンやヴィーガン料理など食材にこだわったランチを提供。



◀カフェ「DEN」

職人が黙々とものづくりをし、営業部員がパソコンで商談する姿がある。「同じスペースで職人が作業をしていると商談の成約率が上がります」と男澤社長。

もらうなどして、地域貢献活動を行ってきました。その活動の延長で、カフェをつくれば、来訪した子どもたちや地域の方々の憩いの場になるのではないかと思います」と、同社の男澤誠代表取締役は、カフェを開設した理由を振り返る。

もっとも当初は、「有効な活用方法がほかにあるのではないかと従業員からの反対意見も多かった。しかし、カフェに訪れた住民と従業員が意気投合してパートとして働く人が出てきたり、映画やCMなど様々な媒体で紹介されたりするにつれ、従業員の理解も得られ、いまではなくてはならないスペースとなっている。

男澤社長の「町工場の暗いイメージを変えたかった」という狙いどおり、採用面にも好循環が生まれ、ここ3年で人員は1・5倍に。若手に敬遠されがちな小さな工場でありながら、毎年4人ほどの若手人材を獲得。EC事業の立上げや海外展開につながるなど、業績にも好影響が出ている。

地域特有の事情を酌んで、住工共存のまちづくりを模索する同社の姿勢は、町工場の未来を考えるうえで参考になるだろう。